

明治三十五年五月

露國鉄道乘券償  
銀陸引揚件

外務省

之月之日報告部受

明治四十一年五月十八日

由警備局

本

中

第一五號

西國鐵道年終債銀率改正  
引揚一件

明治四十一年五月十八日  
報送第六六號

第四通商  
第三拾一  
三十七  
濟神

官報掲載

通商彙纂

之月之日報告部受

五月官報掲載

今般露國に在る鐵道年終債銀率改正  
正行一般車賃引揚大減大減大減  
千九百二十年四月十日附次其實施期限  
九ノ如布告

一内地一般鐵道線路に於る露國本年七月  
月一日より改正率之實施スルコト但し分二次  
記載スル市街及市外鐵道ハ其限ナシ

二市街及市外鐵道線路に於る本年七月  
一日より改正率之實施スルコト

在外公館

三國際交通鐵道線に於る九ノ期間之實施  
スルコト

東清鐵道線に於る露國本年七月一日より  
西歐諸國ト交通線に於る本年九月十日  
新曆十月一日より同十月十九日(新曆十月九日  
九月一日)ニ至る間南洋外國鐵道會社  
ノ支拂上之レノ實施スルコト

曩者露國ハ千九百十四年以來一般鐵道ノ  
債銀率ヲ改正シ著シク低額ナリシナリ南米  
鐵道經濟ノ成績ハ其支拂債カサレシナリ其  
不足額ハ漸次増進シ千九百十四年ノ調査ニ依  
ルニ四千七百萬留、巨額、達シタルニテ銀債  
銀引揚ノ説ハ久シク市街者ノ同意ナリ居

100

タルカ茲之急々之レヲ実行ノ元ニ至ルナリ而シテ其  
 改正ノ要ハ五トシ一等及ニ等乗車債引  
 揚ケルストシ三等債銀ニ至ルハ其増率極極ノ  
 一輕少ナリトシ多數ノ乗客ニ中以下社界  
 之影響音リ及オサルニテ好方メタシムル如シ即チ  
 改正率ニ依リ三等債銀ヲ打算スルニ三百七十六  
 露同ニシテ僅カニ四十カヤイテノ増額ノ示メシ之と準  
 シ漸次増加シ二千カ一露同ノ債銀ニ對シ漸  
 ク是留ノ増加ヲ来ラス(割合ナリ)  
 是ト及シ一等及ニ等ハ若ク増加シ徑来ニ  
 債銀ハ三等ノ二倍半ナリシ改正率ニシテハ三倍ト  
 リ又ニ等ノ一倍半ヲ一倍ニシテトナシタル如キ是  
 十ノ年新ノ債率ノ比較増減ヲ示スハ右表

在外公館

一般乗車債銀表 (單位毫圓)

距離	現行率	改正率	増	現行率	改正率	増
1000	2.16	2.33	0.17	3.30	4.50	1.20
2000	3.99	4.90	0.91	6.25	8.40	2.15
3000	5.34	6.55	1.21	8.60	11.40	2.80
4000	6.70	8.40	1.70	11.00	14.40	3.40
5000	8.06	11.20	3.14	15.00	19.20	4.20
6000	9.42	15.00	5.58	19.00	27.00	8.00
7000	10.78	19.80	9.02	23.00	36.00	13.00
8000	12.14	24.60	12.46	27.00	45.00	18.00
9000	13.50	29.40	15.90	31.00	54.00	23.00
10000	14.86	34.20	19.34	35.00	63.00	28.00
11000	16.22	39.00	22.78	39.00	72.00	33.00
12000	17.58	43.80	26.22	43.00	81.00	38.00
13000	18.94	48.60	29.66	47.00	90.00	43.00
14000	20.30	53.40	33.10	51.00	99.00	48.00
15000	21.66	58.20	36.54	55.00	108.00	53.00
16000	23.02	63.00	40.98	59.00	117.00	58.00
17000	24.38	67.80	45.42	63.00	126.00	63.00
18000	25.74	72.60	49.86	67.00	135.00	68.00
19000	27.10	77.40	54.30	71.00	144.00	73.00
20000	28.46	82.20	58.74	75.00	153.00	78.00

161 高

九〇〇〇	四二五	五二五	八二五	七二〇	八八〇	一七二〇
六〇〇〇	五一〇	六一五	一〇三五	八五〇	一〇五〇	二〇〇〇
七〇〇〇	五九〇	七一五	一一三五	九九〇	一一八〇	二二〇〇
八〇〇〇	六八〇	八一五	一二三五	一一〇〇	一二九〇	二五〇〇

以上一般債銀率より急行債銀其他、附加率と在  
セヤルナリ

右及報告書並録

昭和十四年四月二十三日

在木下

副総事 福田直彦



外務大臣 伯耆林 蔭敷

外務省